

第18号

市小公連だより



筑紫野市小地区公民館連絡協議会

■発行元 筑紫野市小公連事務局 ■☎818-0057 福岡県筑紫野市二日市南 1-9-3
 ■発行責任者 会長 三宅 俊明 生涯学習センター内 ☎092-918-3535

【役員のご紹介】



代表理事
菅 勉

美しが丘南公民館長

平成31年も早3月、いよいよ4月からコミュニティとの一体化を待つばかりとなりました。40年以上の歴史を持つ小公連(自公連)も、正に節目の時を迎えています。

各地区に於かれましては、規約の改正等準備万端整えられていることと存じますが、明るく、安全・安心のまちづくりを目指し、共に頑張つてまいります。

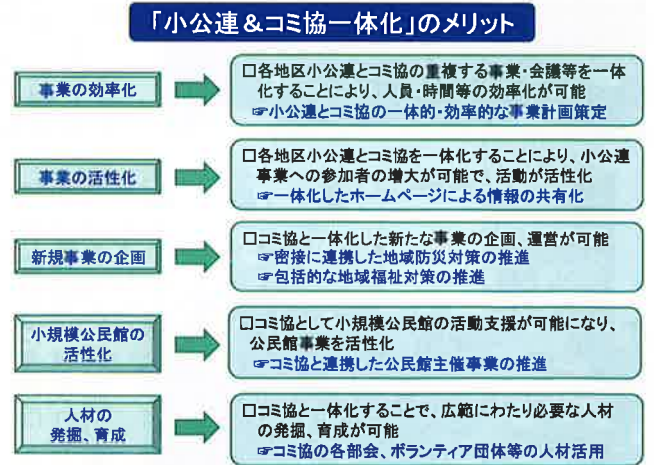
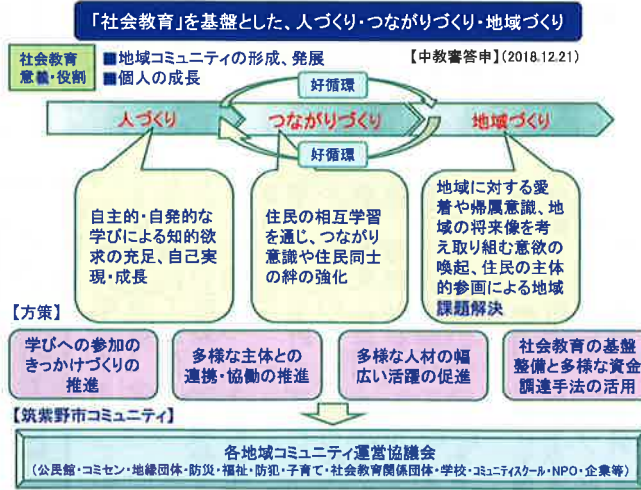
ところで、如何に組織・体制が変わろうとも地域の皆さんが最も身近に感じる地域活動の拠点は、言うまでもなく私たちの公民館です。

社会教育の推進は勿論ですが、近年における各種災害の発生をみましても、公民館の防災拠点としての役割は益々その重要性を増しています。

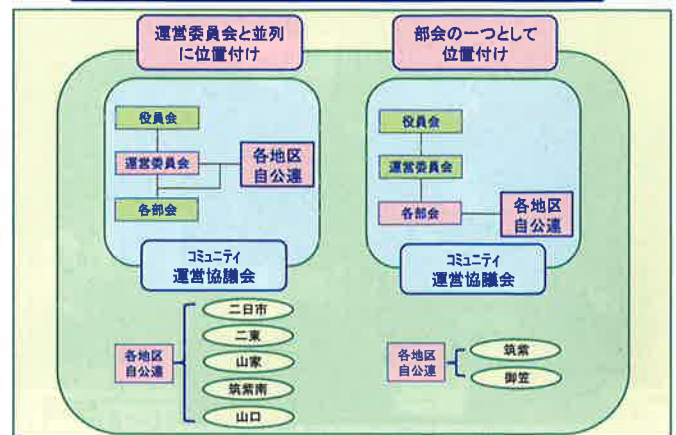
私共と致しましては、常にこのことを自覚し、誇りと使命感を持って、これまで以上に公民館活動に取り組みんでいかなければなりません。皆様のご支援・ご協力をお願い致します。

小公連 & コミ協 一体化推進

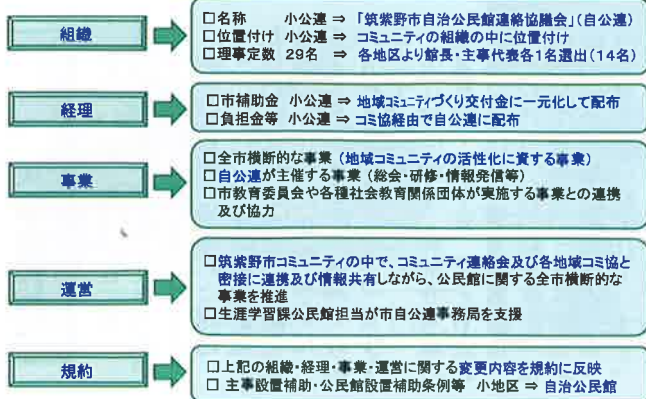
5月12日の市小公連定期総会で承認を得た一体化答申案に沿って、条例改正、補助金などの一元化、各地域コミ協における小公連組織の位置づけ確立等、平成31年度からの運用開始に向けて推進中。文科省においても、12月21日に社会教育を基盤とした地域づくりに関する中協審答申がだされておられ一体化の取組みもこの方向性に沿うもの。以下、【中教審答申】【一体化のメリット】【一体化後の体制及び変更点】【各地区自公連組織】について図示します。



各地区自公連 & コミ協 一体化【組織】



一体化後の体制及び変更点



市小公連地区別視察研修会

山家地区全公民館

平成31年1月19日(土)
山家コミュニティセンターにて開催しました。



「自分たちの地域は自分たちで守る」というテーマで福岡県消防防災指導課の岩村和哉氏を講師に招き講演をしていただきました。岩村氏が特に強調されていたことは、防災の基本は「自助」であり、大規模災害時の自助・共助・公助の割合は7・2・1となる。これは、大規模災害が発生した時は、例えば電話が繋がらない、繋がっても救助に行く道路が寸断されている、対応できる公的機関の職員がいけないなど公助による対応が困難であるからです。地球温暖化により一昨年の九州北部豪雨を始め、日本各地で豪雨災害が発生しており、今後は豪雨災害の危険に晒されることは日本に住む限りは宿命であると思っています。その災害から身を守るために自助としてまず早期に避難をし、その後共助として地域の住民の救助に当たることができるよう災害への心の備えをしなければと考えています。

筑紫地区

永岡公民館

平成31年2月3日(日)
永岡公民館にて開催されました。研修会テーマ
第一部「永岡の四季」



永岡地区の世帯や人口の推移、交通の利便性が良いことからマシオンやアパートの立地が顕著であり、人口の増加が見込まれる反面、校区及びコミュニティセンターの二分割、高齢者対策、青少年の育成及び広域自治の執行・深化などの問題点も多く抱えていることを報告されました。主な活動・子ども登校時見守り・パトロール・リサイクル回収・いきいきサロン・高齢者見守り・いもいも永岡・ホームページ作成・敬老会・およど夏祭り・いもいも事業・餅つき大会・ほうげんぎょう・あるこう会等DVDで年間行事を発表されました。第二部「地域防災について」市危機管理課 萩尾浩三氏から昨年の豪雨状況について説明がありました。

山口地区全公民館

平成31年2月2日(土)

「超高齢化社会における新たな地域づくり」公民館を拠点とした地域コミュニティの形成」(山口コミセンにて)

講師 筑紫女学園大学 山崎 安則氏



6地区(平等寺・山口・萩原・古賀・立明寺・むさしヶ丘)合同で開催いたしました。超高齢化地域に突入した山口地域における課題を整理しながら、国が進める「地域包括ケアシステム」の内容までふれて、「地域で人生の最後まで暮らし続けることができる」ためには日頃からどのような取り組みを進めるべきなのか、地域公民館での課題が浮き彫りにされました。また、講演終了後の質疑応答では、参加者から切実な課題についての質問もされ内容のある研修となりました。

二日市地区

栄町公民館

平成31年2月9日(土)

3地区(中央、栄町、昭和)公民館にて開催され、「栄町公民館の活動内容・現状と今後の課題について」の報告がありました。



第一部 栄町のプロフィールでは今のJR二日市駅の開設の歴史・駅前の記念碑の解説、昭和30年代の町内会活動の写真や現在の年代別人口の状況等の紹介がありました。第二部 町内会及び公民館活動では町内での七夕まつり飾付やシニアクラブ・サロン(なごみ会)の支援、年末防犯パトロール、町内日帰りバスツアーについての活動と今後の課題の報告がありました。愉快的な発表に会場は、なごやかな雰囲気包まれ、各町内共通の悩みに共感の声がありました。

御笠地区

天山公民館

平成31年2月10日(日)

天山公民館で開催されました。テーマ「超高齢化における区と公民館の現状と課題」

天山区は、全域が調整区域で新規の転入者がなく、高齢化率は四一・三%(筑紫野市は二四・二九%)と年々進み、昨年四月の新小学生はゼロと少子化です。



公民館活動は、高齢者対象の元気教室・映画会、子ども会と共同で芋ほり・焼き芋大会に二門松作り。公民館サークルは敬老会で披露し、今後は御笠地区市民文化祭にも出演しようとして一層活動に励まれています。今後は、男性のサークル活動育成が課題です。超高齢化の進展により、色々な問題が今更以上に出てくると思われませんが、区民が一層コミュニケーションを図り、住みやすい町づくりを目指したいと思えます。

二日市東地区
若葉中原公民館



平成31年1月20日(日)
若葉中原公民館において研修テーマを「今後の公民館のありかた」地域と行政をつなぐとして行いました。
高齢者への福祉活動「いきいきふれあいサロン・元氣教室・認知症サポート養成講座」地域のみんなで見守り育てる「ふるさと塾」の取組みなど中心メンバーである民生委員さんのお話を中心に説明いたしました。
多くの人に参加して頂くためのプログラム作り、運営スタッフの確保など今まで苦勞してきたことも聞いて頂き、参加された皆さんから意見を聞いて頂くことができました。
これからの活動の中で検討していきたいと思えます。

筑紫南地区
光が丘公民館



平成31年1月26日(土)
光が丘公民館において、「高齢化の進捗と公民館の役割」をみんなで楽しむ公民館活動をテーマに研修会を開催しました。
前半は館長から、公民館主催と自治会主催に区分して実施している区の行事・公民館の運営状況の説明。続いて高齢者がより楽しく集える公民館活動の推進のため、いきいきサロン(参加者40名や熟年の会(会員数13名)が活発に活動している様子)が発表されました。後半は主事から、「健康と防災」を中心に発表が行われました。特に、「こざれい」で安全な公民館をテーマに、住民による輪番制の公民館清掃の実施は、公民館の存在やその活動内容を広め、地域住民のコミュニケーションを高めるために有用だということでした。また、「防災といわぬ防災」を意識しての地域のイベントや祭は、地域の安全を守る訓練に直結させる工夫が溢れていました。今後は、若い世代を取り込むために、サポーターの会を準備しているとのことでした。

九州地区公民館研究大会

■ 1月15日(木) 沖縄県立武道館アリーナ棟 (分科会：4分科会：自治公民館活動)
討議のテーマ：『豊かな地域づくりを担う自治公民館活動のあり方』

*鹿児島県伊佐市牛尾校区コミュニティ協議会山下和弘会長

子供と高齢者がともに生きる地域づくり～生きがいを求めて、活動内容は安心、安全な地域づくり、地域介護予防活動、水曜日は幸齢者の日、青少年体験活動、ふるさと学寮、フットパス事業⇒11年経過住民の活動が浸透してきた。

*沖縄県宮古島市城辺地区比嘉公民館砂川雅一郎氏

伝統行事への継承で活力ある地域づくりをされている2組の発表があり内容はどちらも地域の特性があり、祭り、文化財等が多い、どこの地区でも少子高齢化若い人の参加が少ないのは当市も同じような傾向にあります。参加しやすい状況にしていかなければ益々衰退していくと思われます。

■ 1月16日(金) 全体会、アトラクション、開会行事、記念講演、閉会行事
講演のテーマ：『あした転機になあれ 笑顔の力、コミュニケーションの力』

*哲學家 紀々(きき)氏

①講演をしながら歌、ピアノの演奏(かきくけ公民館、島野菜の歌、年子さん)

②人を元気にする一言には色々あるが、人それぞれ。言ってくれる相手による。

③×(バツ)なことがあっても見方を変えれば+(プラス)になる

他にも色々な話をされましたが、一番印象にあったのが3例でした。

笑いもあり、とても心が和む講演でした。

萩原公民館主事 松下 昌弘



沖縄県立武道館アリーナ棟



11月15~16日 参加者：16名

福岡県公民館実践交流会 1月23日

本会は1月23日(水)、会場「宗像ユリックス」に県内の公民館関係者約920名が参加して開催され、本市からは小公連役員など17名が参加しました。

開会行事後の分科会は、全16のテーマの中から任意に4テーマを選んで参加する構成となっていて、私は本市の公民館活動の実情に即した「自治公民館」関連の分科会を主に選びましたが、機会があれば時間をかけて詳細を伺いたいという余韻を残したのは次の2分科会の事例でした。

【特色ある公民館活動】 朝倉市 松末(ますえ)地域コミュニティ協議会

松末再生に向けての取り組み <平成29年九州北部豪雨におけるコミュニティの現場から>

※ 復興途上にありながらも「明るさ」を失わず、地域コミュニティが果たすべき役割と方向性をきちんと分析・整理して努力し、成果を挙げておられることに感動するとともに、この体系的な活動を私の地域の災害対策の参考にしたいと思いました。

【地域の繋がりと町内諸団体との連携を生かした活動】 大川市 紅粉屋(べにや)町公民館

※ <町内の融和と健康で明るい町づくり>を公民館活動の伝統的な旗印として掲げ、盆踊りなどの「ふるさと行事」を大切に脈々として継続するほか、伝承民族芸能「四つ竹踊り」を復活させた活動など、館長の洒落な説明の中から、スタッフの並々ならぬご苦労や、それをものともしない郷土愛を強く感じ、もっと詳しく伺いたいと思いました。

市小公連理事 中央公民館館長 田原すま子



山口地区・萩原公民館

私たちの郷土萩原は、筑紫野市南側の山裾で、緑豊かな野に囲まれた自然と、山口川の清流に恵まれた地域です。

萩原は1,560年頃、「武蔵村」と呼ばれていた頃から存在し明治22年には萩原村となり山口村萩原となりました。

公民館は、昭和49年6月に建築され現在も使用していますが築40数年経過し老朽化が著しい。公民館は、筑紫野市から災害時避難場所は除外され安全な建物とは言い難い、行政区の人口は309名121世帯と小地区で少子高齢化地区です。

年間には主なものとして、グラウンドの草刈(8月)・夏祭り(8月)・敬老会9月・神社夏、秋、の祭典(6, 10月)・いきいきサロン(2ヶ月に1回)など実施しています。

平成30年10月20日には、萩原扇祇神社の絵馬について「齋藤梅圃(さいとうばいほ)と扇祇神社の絵馬」という演題で、文化講演会を開催。参加者は、小・中学生を含み75名の出席でありました。今後、神社の絵馬を大切に保存する必要性を肌で感じました。

萩原扇祇神社の絵馬

萩原公民館長 真鍋 豊

